

卒業論文概要

氏名 松田 祐貴

[研究の動機・目的]

私はこの 2 年間梅澤ゼミで活動してきて、改めて交流の大切さを学んだ。卒論のテーマを決めることになったとき、私は今までの活動を生かした内容にしたいと思った。そう考えているうちに私は自分の住んでいる地域の交流が少ないことに気付いた。そこで私は卒論のテーマを「地域内交流を通して街の活性化を図る」というものに決めた。

[どうやって交流を促していくか]

私の住んでいる地域の活性化を図るに至って、まずはこういった課題がこの地域にあるのかを調べる必要がある。そこで私は新興住宅街である私の住んでいる地域と昔からある交流の盛んな地域を比較することで課題を見つけることにした。そして最終的に課題の解決ができたのであれば提案していこうと考えている。

[私の住んでいる地域 かがやきの街 の紹介]

かがやきの街の開発は 1998 年～2001 年に行われ、現在の世帯数は約 140 世帯である。「光と緑の眺望が織り成す丘の上の物語が、ここから始まる。」をキャッチコピーに分譲された土地である。

かがやきの街自治会の主な活動内容は「回覧板の発行・掲示板の掲示」、「防災・防犯活動」、「環境整備活動」、「青少年を対象とした文化福祉活動」を行っている。とくに「防災・防犯活動」が多く、昨年度の活動では町田市総合水防訓練の見学、子ども 110 番の家の希望調査、不審者対策ポスターの掲示、防犯リーダー講習会、防災・防犯パトロールなどの様々な活動を行っている。

[比較対象である 日向台 の紹介]

日向代は 1970 年代に開発が行われ、現在の世帯数は約 200 世帯である。昔からある地域なのでお年寄りが多い。古くからの付き合いの人が多いため交流が盛ん。現在は地域内の高齢化が問題となっている。

日向台自治会の主な活動内容は「かがやきの街」と同じような活動とは別に骨密度測定会や自治会館の活動など工夫の見られる活動を行っている。とくに自治会館の活動はふれあいサロン、囲碁、麻雀、子供会等の活動に加えて、新しくふれあいボール体操とフラダンスの方々が参加し、利用者数が増加した。

[現時点での比較結果・課題]

まず「近所の人との交流に積極的ではない」。そして「かがやきの街自治会の活動には工夫がない」最後に「未来を見据えた活動が必要」だと考えている。「近所の人との交流に積極的ではない」というのは日向台だとお茶会などを行ったり、足腰が弱い老人の家の草むしりをしたりなど積極的に交流しているのに対して、かがやきの街ではそういった姿勢が見られないように感じている。次に「かがやきの街自治会の活動には工夫がない」というのは街の人に聞いてみたところ、自治会の設立当初はまだ右も左もわからず、他の自治会の活動内容をコピーしただけだったという。そういった経緯から新しい取り組みについて考えてくる機会がなかった。日向台自治会の活動内容にあるような自分の地域に合った活動があるのではないかと私は考えている。そして最後の「未来を見据えた活動が必要」については現時点ではかがやきの街にお年寄りが少ないが、これから先は増えていくだろう。日向台自治会のように高齢化が進んでから考えたのでは遅いのではないかと、参考にできる地域があるのだから早めに対応していくべきだと私は考える。

[今後の展開]

今後の展開としてはこれらの結果に満足せず、もっと比較すべき対象がないか模索する。例えば今回は住宅街と住宅街の比較を行ったが、団地の地域と比較したら、また違った課題が浮上してくるのではないかと考えている。そして「かがやきの街」に浮上した課題をいかに解決するかを模索していく。課題解決に必要なであればアンケート調査なども行っていきたいと考えている。